

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203212		
法人名	医療法人 恵和会		
事業所名	グループホームあけぼの		
所在地	岡山県倉敷市児島小川9丁目486-1		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和5年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・お一人お一人に寄り添い、個々の能力に合わせた援助に努める様に心掛けています。 ・日々、楽しく過ごせる様に四季に合わせた創作活動・余暇活動・行事等に配慮し取り組んでいます。 ・アットホームな雰囲気の中で、お1人お1人を大切に、日々、穏やかに過ごせる様に支援しています。 ・母体が医療機関の為、医師・看護師との連携を図りながら健康管理に努め、定期的に適切な検査・治療が受けられる環境になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設時からの理念「思いやり・支え合い・助け合い」を基に一人一人の「暮らし」を大切に支援している。かかりつけ医の往診もあるが出来るだけ敷地内の病院へ五感刺激と運動を兼ねて定期受診支援をしている。各々利用者の残存能力を把握して出来る事を最大限支援している。母体が医療機関で有ることは利用者、家族、職員の安心に繋がっている。会議、研修での情報は議事録閲覧等で職員へ周知徹底がされている。運営推進会議も再開され、身体拘束について取り組みの報告や身体拘束について指針などの参考資料を基に職員同士意見交換している。毎月の「あけぼの便り」をとおして(日々の暮らしの写真や近況報告文)家族へ安心もいっしょに届けている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール内・事務所内に法人の理念やホーム独自の目標を掲示し、それに基づいた方針で地域の中で、その人らしく居られる様に、ご本人・ご家族様を含め尊厳を保ち支援を行っています。	開設以来の法人理念からさらに「自分らしく、生き生きと暮らしたい」目標を掲げ職員一同一丸になって支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年もコロナ禍の影響で地域行事には参加できていませんが、この秋まつりには地元の方からお声掛けがあり受け入れる事となり、入居者の皆様は楽しみにされています。	近所住民との朝夕の挨拶に始まり、顔なじみになる。地元の強みで地域での行事だんじりが駐車場に来てくれてみんなで楽しんだり、雨の中御祓をもらった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申し込み時等に認知症の相談を受け、お話をお聞きし支援方法をアドバイスを行うと、帰られる時には「少し見方が変わった」と言われ感謝される方がおられました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より運営推進会議を開催し、地域の方と話す機会を設ける事ができ、認知症の相談については支援方法をアドバイスを行う様にしています。参加者の中にはコロナ感染の為、欠席される方もおられます。	地域代表、民生委員、地域包括センター、介護保険課の担当者参加の下会議が開催された。身体拘束について質疑応答がされた。職員へ会議録と参考資料(身体拘束)を回覧し情報の共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて市と連携し、意見・助言・協力を得てサービス向上に努めている。	顔の見える関係を心かけている。介護保険の減免申請や生活保護の被服費申請など手続きを支所へ出向いている。顔見知りになり他の情報も得ることが多く利用者のサービス向上に繋がっている。	申請主義なので手続き代行することが難しい事が多々ある。毎月発行されている「あけぼの便り」に～〇〇手続きはお済みでしょうか～と一文を記事に掲載案内を提案します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯ブザーを設置し施錠は行わず、入居者様の行動制限を行わないケアに努めています。また、コロナ感染予防の為、資料を活用しホーム内研修を行い知識を深める様に努めている。	開設以来、家族の理解を得ているながら防犯ブザーの設置は継続している。不穏な利用者(言動、態度)についての情報共有を図り、見守り強化している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待に繋がるかを職員間で話し合い言葉使いにも注意し、虐待に繋がらない様に職員全員が日頃から意識している。コロナ感染に配慮している為、資料を活用しホーム内研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を活用されている方が居り、定期的に来訪されているが、勉強会等は行っていない為、研修を受けられる様に計画が必要かと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い疑問等にお答えし、納得された上でサービスを開始している。改定時には随時、説明し承諾して頂き、書面でも残している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はコロナ感染に配慮している為、行っておらず、毎月のお手紙で近況報告を行い、ご家族面会時にも直接、近況報告を行い、要望等もお伺いし反映できるように務めている。	毎月の「あけぼの便り」や近況を知らせるお手紙の発送により、家族からは、「便り」を見るのが楽しみと言う評価や細やかな配慮に感謝の意が挙げられている。	近況の中に一文を入れることは大変ですが一文によって家族は安堵し嬉しくありがたいと感じています。是非どんな些細なことでも継続してお知らせして下さい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は随時、職員の意見・要望を聞くように心掛け、毎月のケア会議でも職員間の意見交換が行える様に配慮している。必要に応じて代表者へ報告する様にしている。	職員からのハード面(木製デッキの老朽化によりコンクリートへ作り替等)ソフト面(勤務調整)合わせてその都度意見を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の就業時間・業務態度の把握に努め、必要に応じて意見・要望を聞くようにし、内容によっては代表者へ伝えるようにしている。非常勤者へは勤務可能時間に合わせた勤務時間に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染予防の為、外部研修には参加出来ていない。法人内研修を年2回開催予定している。個々の能力を把握しながら、必要に応じて技術向上に繋がる様な指導に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防に努めながら徐々に交流会・訪問等を行う様に努めており、必要に応じて個々で連絡を行い情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には情報収集・把握に務め、入居後は、日々の生活でコミュニケーションを図り、ご本人の意欲に寄り添い、安心した生活ができる様に支援し、収集した情報は職員間で共有する様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス提供前に、家族の不安な思い・意向等を伺い安心して頂ける様に傾聴し、入居後はご家族へ必要に応じて連絡をとりコミュニケーションを図る事で、親近感を感じて頂ける様な雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族のご意向をお伺いし、優先順位を見極め、その時々に必要なサービスに配慮し提供する様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事・出来ない事・得意分野等を把握し、個々の能力に合わせた個別対応を行い、コミュニケーション後は感謝の言葉をかけ、信頼関係を深める様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策を図り疎遠にならない程度に来訪して頂き、必要に応じて電話連絡を行い、月1回のお便りには個々に合わせた内容で近況報告を記し配布している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染対策を図り面会して頂いているが、外出については検討を図っている。遠方からの贈り物が頂いたら、お礼の電話をして頂き、関係が途切れない様に支援している。	帰宅願望の対応として家族調整し自宅への外出が可能となった。家族がいない場合は近場のドライブに誘い、偶然に近所の人(元居住していた)と出会い、昔の話に喜び、楽しんだ。地域との接点を持ちながら関係を継続させる支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴者が多いので、個々が孤立しないように席順に配慮し、職員が間に入る事で入居者様同士が楽しく作業・会話ができるような雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に相談出来る様な関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を傾聴し思いを受け止め、可能な限り思いに添える様に努め、入居者様同士の会話にも耳を傾け、職員が聞けてない内容の時は、職員間で情報を共有し必要に応じて問題解決に努めている。	日々の関わりの中で、声かけし個人差はあるが経験値から思いを聞き取る力量をつけている。利用者の言葉にしづらい思いを行動や表情からくみ取り把握する努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前にご家族から必要な情報を提供して頂き、入居後は日々の会話の中からも生活歴を把握するように努め、意味が解らない時はご家族にお尋ねし、職員間で情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本、お好きな場所でお好きな様に過ごして頂き、個々の生活パターンの把握に努め、日々の様子等を随時、記録に残し職員間で情報を共有し、ケアに反映する様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活に問題点があれば会議前に決められた書面に個々に記入し(勤務都合で参加できない事もある為)会議で現状に合ったケアの見直しを行い、必要に応じてご家族に相談し、介護計画に反映させている。	利用者がその人らしく暮らし続ける為、現状に合ったケアの見直しを話し合う。日々の関わりから家族の思いや意見を面会時やTELで聞き反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子・会話・気づき等を個人記録に記録し、知り得た情報は必要に応じて連絡ノート等を活用し職員間で情報を共有し、ケアや介護計画に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせてケアを行い、ご家族・医師・看護師等と連携を図り、職員間でも話し合い、広い視野で入居者様のニーズに対応できる様に努め、暮らしやすい環境になる様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防の為、外部との関係作りが行えていない。食材は地元業者からの配達を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス開始前にかかりつけ医の確認を行い、ご本人・ご家族の意向に合わせている。緊急時、他の医療機関を受診する際にも、かかりつけ医・ご家族と密に連絡をとり対応している。	母体病院が隣接されていることで利用者・家族はもちろん緊急時には(特に夜勤)職員の安心にも繋がっている。ライン動画で状態の変化にも対応してしてもらえる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、入居者様の体調・状態報告を行い、医療的な相談・指導を受け、異常の早期発見に努め、適切な対応が出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人・ご家族が安心した治療が受けられるよう些細なことでも主治医に報告・相談し、ご家族が話せない事でも相談を受けたら状況により病院へ報告・対応を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご本人・ご家族に暫定的なご意向をお伺いし、終末期の際には、ご本人の意向を踏まえた上でご家族・主治医・管理者が、今後の治療方針を話し合い書面に残し、その後、職員間で話し合い、内容に合わせた介護計画を立て支援に努めている。	入居時から段階的状態変化に応じた話し合いと家族の意向を把握している。ホームの力量・体制や医療機関との違いを説明し情報提供して支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは整備しているが定期的な訓練は行っておらず個々に勉強が出来るように書籍を設置している。解らない事は医師・看護師に聞いたりしている。日々、職員間で適切な対応が出来る様に話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・防災マニュアルを整備し定期的に入居者様参加型の避難訓練を年2回行い、合わせて災害訓練も取り入れている。「いざ」と言う時は近隣の方へ協力依頼をしている。	火災に加えて地震災害訓練も行った。以前、運営推進会議で地域(包括支援センター、民生委員、地域代表等)へ呼びかけて訓練を行ったことがある。今後もやりたいと考えている。慌てず確実な避難誘導が出来るよう訓練を繰り返すことが大切です	職員だけの誘導の限界を具体的に確認する。身近の解決できる課題から取り上げて、ひとりでも地域の協力者を得るための呼びかけを諦めないでやってほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、言葉使い等に配慮している。また、個々の性格等を把握し、個々に合わせた伝わり易い言葉を使う様に心掛けている。	年長者として敬意を払い目立たずさりげない言葉掛けや対応に配慮している。特にトイレや入浴時の注意をはらっている。非言語によるコミュニケーションも表情や手振りで理解に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気兼ねなく意思表示・自己決定が出来る様な雰囲気作りに努め、その時々に合わせて選択肢を幾つか提供し自己決定して頂き、職員本位にならないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課は設定しているが、個々の、その時々に合わせてペースで家庭的な雰囲気生活が送れる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせた整容道具を用意して頂き、服装も可能な限り個々で選んで頂き、乱れがあれば直しを介助している。訪問理美容を活用しているが、コロナ感染防止に努めながら利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食事形態に配慮し、嫌いな物は代替えを用意する等の工夫を行い少しでも楽しく食事が出来る様に心掛けている。食事前後のお手伝いをされる方もおられ、皆さんで協力されながら日々を過ごしています。	食事が一番の楽しみである。個々の利用者の体調に合わせて食塊や形状に気をつけて行事食など意向を聞いて、楽しく食事がとれるよう工夫をしている。調理、片付けも出来る事は一緒にしている。一日の大切な活動の一つとして位置づけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた水分量・食事形態・食事量・器具にも配慮し摂取量を記録し、飲み物の要求がある方・入浴・散歩等の後には水分提供し脱水防止等にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に歯磨きの声掛け・磨き残しの確認・ケアを行い、義歯使用の方には、夜間の義歯の管理を行い、歯科治療が必要な方には、ご家族と相談し歯科受診・往診を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、個々に合わせた誘導を行い、パット等の選別・使用の工夫も行っている。	各部屋にトイレが設置されてポータブルの使用はない。排泄チェック表からパターン習慣を活かしてトイレで排泄出来るよう支援している。あからさまな誘導ではなくさりげなく傍らで支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に飲むヨーグルトを提供(飲める方のみ)し腸内活性に努め、日々、体操を行って頂く事で予防にも取り組み、必要に応じて主治医に相談・便秘薬を活用し排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員都合で、入浴日・時間が決まり、定期的な入浴が出来ない日がある。「もう少し後で」等と言われる方には、可能な限り対応しているが、基本、清潔保持に努めている。	限られた職員配置の中で出来るだけ利用者の意向に添うよう努力している。拒否される利用者への取り組みとして声かけ(時間をおいて)、とタイミングを計って誘導している。くつろいだ気分で入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調・居眠りが強い方等は、自室での臥床を促し、昼夜逆転しない様に心掛けている。夜間、空腹の訴え時には状況を見ながら、ホットドリンク・少量の夜食等を提供できるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤説明書を専用ファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。内服薬変更時には、職員間で情報共有できるようにしている。体調変化時には随時、主治医へ報告・指導を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のコミュニケーションの中で、個々の得意分野の把握に努め、家事作業・余暇・創作活動等を行って頂いている。参加後は感謝の気持ちを伝える様に心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防に配慮し、気分転換を目的に外出(ドライブ等)は人込みを避けて実施している。ご家族の協力でご自宅への一時帰宅も可能な限り行って頂いており、日々、外気浴を目的に中庭へも出て頂いている。	利用者の状態や残存能力を活かして季節、その時々状況を見ながら一時帰宅や住み慣れた地域へのドライブ、外気浴など支援している。戸外へ弁当をもって出かけることを楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染予防の為、買い物に出かける事はない。お預かりしているお小遣いで身の廻りの物を購入した際には支払いを記帳し、ご家族来訪時にお小遣い帳を確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様宛に手紙・荷物等が届いた時は、ご本人からお礼の電話が出来る様に支援しており、ご本人が電話を希望される時は、随時、対応出来る様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様同士が不快な思いにならないようにテーブル配置・席順に配慮し、入居者様が手作りされた作品や、行事風景の写真等、見える場所へ飾り工夫している。日中、中庭に干している洗濯物取り込みに行き季節感を感じて頂ける様な工夫も行っている。	居心地の良い場所、安心感に繋がるようフロアの飾り付け(季節感・生活感を取り入れ)や共同作品の展示など工夫している。みんなで参加し個々の能力にあった制作をしている。五感への刺激を配慮して暮らしの場を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角に和室・ソファがあり、個々でくつろげる場所で過ごして頂ける様に工夫している。ほぼ席は決まっているが、気が合う方同志が座って頂けるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、可能な限り自宅ですべて使っていた家具・生活用品等を持参して頂き設置している。個々にあった環境作りに配慮している。	居室は和を基調にして落ちつき(ユニットではなく日本家屋)なじみのTV等置いている。状態の変化で畳からフローリングにしている部屋もある。入所前の活躍していた写真や作品が持ち込まれ居心地の良さを一番に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は移動しやすい様に家具・ベッド等の配置に工夫を行い、押し車移動経路も配慮している。タンスには衣類の区別が解る様に名札を付けホール内では押し車使用者に待機場所の把握が出来る様な工夫している。		